

## 行政調査報告書「市民文教常任委員会」

平成 23 年 7 月 13 日（水）～15 日（金）

### ■東京都葛飾区「区立中央図書館について」

この区立図書館は、駅前再開発事業により再開発複合ビル  
の 3 階に開設された。規模は 5 千㎡のワンフロアでユニ  
バーサルデザインを取り入れた近代的図書館である。

先進的な機能を備えており、多くの利用者があるが、街  
中の賑わい目的の設置でないため来館者のシャワー効果は  
不明とのこと。



本市においては、中心市街地拠点施設整備で中央図書館が設置される予定であるが、利用者ニーズを把握し、先進的な図書館機能を取り入れることで人が多く流動し、これに伴い相乗効果的に市街地の賑わいに波及することを期待する。

### ■埼玉県所沢市「特別支援教育等について」



特別支援教育支援員制度については、各学校 1 名の配  
置とのことであったが、本市は必要に応じて必要な支援  
員を配置しているので、安城方式の方が実情に適してい  
る。

特別支援教育専門家チーム委員会については、大変参  
考となる取り組みだと感じた。総勢 24 名のチーム員には、  
精神科・心療内科の医師、人間科学・心理学・特別支援科学の大学教員が含まれており、  
専門的見地から助言を行っている。これにより、親も安心納得され、また特別支援担当  
教員の負担も軽減される。

本市では、各学校においてコーディネーターの資質向上に努めているが、こうした全  
体から支援する組織の研究は今後必要と考える。

### ■宮城県栗原市「大規模地震（宮城内陸地震）の被災対応について」

2 つの大地震（宮城内陸地震・東北地方太平洋沖地震）  
を経験した栗原市で調査できたことは大変有意義であった。

宮城内陸地震では通信機能の不能が一番の問題点であっ  
たということで、その後、公共施設への衛星携帯電話の設  
置、防災無線のデジタル化、移動用パラボラアンテナの導  
入を行っていた。



対策本部での活動として、国県との連絡体制の充実とマスコミ対応なども重要な課題  
として挙げ、また、避難所運営の説明も実体験によるものであり、よい教訓を得るこ  
うができた。

今回の調査先の移動途中で、仙台市沿岸部の被災状況の視察を行った。まさに未曾有  
の被害であり、目に焼き付いたこの光景は決して褪せることないだろう。